

第3回 栃木県立益子芳星高等学校 学校運営協議会 報告

開催日時 令和7年1月22日（水）13:20～15:15

開催場所 本校会議室

出席委員 大塚 昌哉 佐久間藤也 池田 範夫
宮下 博幸 保坂 一哉 篠原 泰三
佐藤 広志 宇都木修一

1 開会

2 学校長挨拶

本日は2学年のコース別探究学習発表会をご参観いただき。インターンシップは2, 3, 4組が多くのお客様にお世話になり実施することができた。体験を通して得た気づきや課題、1年生に向けて伝えたいことなどをまとめ、コース内発表を経て、6チームが代表して発表を行う。ましこ未来大学は、1組において1年間通して研究したことを12月7日に実践し、活動を通して考えたことや得たことをまとめ、発表を行う。評価シートを用意したので委員の皆様には各チームへのコメントをご記入いただき、最後に大塚会長から生徒たちへの講評をいただきたい。

3 2年生コース別探究学習発表会

(1) 校長挨拶・出席者紹介

(2) インターンシップ体験発表（13:25～14:15）

(3) ましこ未来大学発表（14:25～15:15）

(4) 講評（学校運営協議会 委員長 大塚昌哉）

2, 3, 4組のインターンシップの発表では、やりがいの実感や挨拶、身だしなみ、コミュニケーションの重要性、社会の厳しさ等、とても大切なことを学んだように感じた。近い将来皆さんが社会人になることを見据えた発表だった。そして1組のましこ未来大学の発表では、高校生の視点でのアイデア豊かで笑顔を意識した実践で来場者を楽しませ、街の活性化の一端を担っていたと感じた。最後に、皆さんの発表する姿から若い力を感じることができた。将来、この益子町に限らず、芳賀郡、栃木県、日本で大きく活躍することを期待する。

(5) 委員コメントから

＜インターンシップ体験発表＞

- ・機械化されつつも大切なところは人の経験や人の手が必要だと感じられたと思う。特に、コミュニケーションの重要性に改めて気づけていた。
- ・将来の就職に直結する経験や様々な情報を得ることができていた。実体験による感想が印象的であった。
- ・会社のことについてしっかり学び、将来必要なことを考えた発表だった。

- ・インターンシップでは、自分達の知らない世界を知ることができる。そこで知り得たことや学んだことを自分の人生の中で生かすことが大切である。今回の体験を友人達と共有し、次のステップで活用してもらいたい。

<ましこ未来大学発表>

- ・子供たちが楽しんでいた様子がよくわかった。
- ・試行→反省→改善のサイクルはとても重要である。
- ・作業手順書があるのはよい。その場で体験するだけでなく、その後、それをどう使ってもらえるかを考えられていてよかった。
- ・子供の目線で考えることが大切であることや参加者の動きを考えていたことはよかった。
- ・親子企画は絆を深める素晴らしいテーマである。子供の現状を踏まえた良い企画だと思った。目を引くような工夫もすばらしい。